| 科目名 | 基礎看護学実習<br>Fundamental Nursing Practice | 担当教員<br>(研究室番号) | 鈴木 聡美（306）<br>灘波 浩子（203）<br>川島 珠実（202）<br>上田 貴子（304）<br>菅原 啓太（204）<br>多久和有加（208）<br>米川さや香（208） | 教員への連絡方法<br>(メールアドレス) | |
|---|---|---|---|---|---|

| 履修年次 | 2年次<br>後期 | 科目区分 | 専門科目・実践基盤看護学 | 選択区分 | 必修 | 単位数<br>(時間) | 2(60) | 授業形態 | 実習 | 科目等履修生 | 否 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | ｵｰﾌﾟﾝｸﾗｽ | 否 |

| | | |
|---|---|---|
| 科目目的 | 受け持ち患者に必要な日常生活援助を実施することを通して、看護実践の思考やプロセスを学習する。 | |
| ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(DP) | 主要なDP | E　地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる 情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。（思考・判断） |
| | 関連するDP | C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。（技能・表現）<br>F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。（技能・表現） |
| 到達目標 | 1. 受け持ち患者と援助関係を築くことができる。<br>2. 受け持ち患者の様子から気がかりを見い出すことができる。<br>3. 受け持ち患者を知るために必要な知識や情報を主体的な学習によって補充できる。<br>4. 受け持ち患者から得た情報を解釈することができる。<br>5. 受け持ち患者の特徴・状況に応じた援助計画を立案できる。<br>6. 受け持ち患者に必要な日常生活援助を安全・安楽・自立に留意して実施できる。<br>7. 実施した介入とそれに対する受け持ち患者の反応を振り返ることができる。<br>8. 看護学生として適切な行動をとることができる。<br>9. 実習を通して学んだことを言語化することができる。 | |
| 成績評価方法<br>(基準) | 実習評価表に基づき,実習内容・実習記録・出席状況などを総合的に評価する。 | |
| 再試験の有無と基準等 | 「実習の出欠席および追実習に関する取扱要領」の第4条の記載される理由で1/4以上を超える欠席の場合に，追実習を認めることがある。再実習は行わない。 | |
| 教科書 | 看護学原論Ⅰ・Ⅱ,基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,看護実践の思考で使用したテキスト,参考書,配布資料,視覚教材<br>教養・基礎科目,専門支持科目で使用したテキスト | |
| 参考書等 | 必要に応じて紹介する。 | |
| 学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待 | 看護師または教員と共に受け持ち患者さんの日常生活援助に関わりながら受け持ち患者の理解を深め，必要としている日常生活援助を実施します。また，カンファレンスを実施し，グループでディスカッションすることで学びを深めることも重要な実習内容です。<br>患者さんを受け持つことの責任を自覚して，自分が出来る看護援助がしっかり提供できるように，知識，技術を高めることはもちろん，体調管理も徹底して実習に臨みましょう。この2週間で体験する様々な出来事を通して，自分自 | |
| 備考 | ・履修条件：看護実践の思考の単位を修得していること。<br>・臨地実習前の８月に学内でオリエンテーションを行う。 | |

## 学　習　内　容

1. 実習期間・実習場所
　＊履修者を2クールに分けた上で，グループごとに2施設に配置する。
＜実習期間＞　2週間　各クールの実習日は後日提示する。
＜実習場所＞　三重県立総合医療センター，三重大学医学部附属病院

2. 内容・方法
1）病院・病棟オリエンテーション
・実習病院における看護の概要について説明を受ける。
・病棟の構造・物品場所，入院患者の特徴,看護体制，週間予定,日課などについて説明を受ける。
・電子カルテ・診療録の見方，閲覧方法，閲覧ルールについて説明を受ける。
2）受け持ち患者について
・学生2名で患者1名を受け持つ。状況により学生1名で患者1名を受け持つこともある。
・看護師または教員と共に受け持ち患者の日常生活援助に関わりながら看護の思考の理解を深め，必要な看護援助を実施する。
3）毎日の行動
・1日の実習目標（行動目標）を立案し，その目標が達成するように時間軸で行動計画を具体的に記入する。
・実習目標（行動目標）と行動計画を発表し，教員または臨床指導者の助言があれば,必要時修正をする。
・受け持ち患者に必要な看護援助を計画し，臨床指導者や教員と具体的な実施について調整する。
・患者への援助は必ず,臨床指導者や教員と一緒に行う。
・援助の終了後は,実施の状況や患者の反応，気づいたこと等を臨床指導者や教員とともに振り返る。
・実施した援助や観察した内容は,臨床指導者または受け持ち患者の担当看護師に報告する。
・毎日,受け持ち患者について気づいたことや援助状況についての振り返りを言語化し,翌日の援助につなげる。
4）カンファレンス
・原則として学生が主体となって行う。テーマの決定や運営方法は，各グループメンバーで話し合う。
・実施時間は，実習状況によって各グループで決定する。

## 学　習　課　題

1. 事前課題：1)実習病棟に多い疾患･治療･看護を調べておく。
　　2)実施することが多い看護援助について，基礎知識と技術の再確認を行っておく。
2. 事後課題：1）受け持ち患者に実践した援助，及び実習生としての自身を振り返り，指定されたテーマに沿ってレポートにまとめる。

*詳細は「基礎看護学実習 実習要項」を参照のこと

## 実務経験を活かした教育の取組

・看護職として実務経験がある教員が実習グループを担当し、指導を行う。また、実習施設では実務指導者からも指導を受ける。